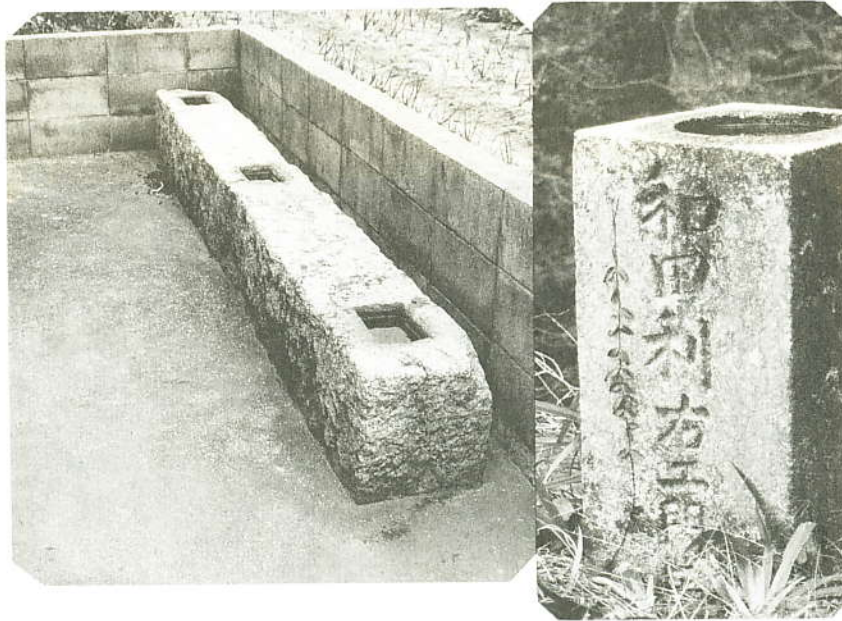


関門基礎石

徳山藩主毛利就隆が開藩に当たり、武家屋敷（家中といわれていた）に四か所の関門を設け出入りを厳しくした。

この基礎石は、一番丁北上に設けられた北関門の片方で、戦災跡から地元の人が発見され、貴重な遺物として、弁財天の所に転送保管されていたものである。もう一つの基礎石が、昭和63年（1988年）北関門跡にあるのが確認された。



手洗鉢

興元寺境内にある杉の森神社入口にあり、和田利右エ門平盛房と彫ってある。

大黒社

二ノ井手（興元寺墓地北下）に、大黒社と彫ってある小さいほこらがある。

文化4年（1807年）に建立されたもので、地元の人は馬頭観音といい、ワラで作った馬を供えて拜むと、風邪や歯痛が治るといわれている。

